

# 旧村川別荘だより



平成 18 年 11 月 10 日発行  
旧村川別荘市民ガイド事務局  
我孫子市教育委員会文化課  
担当：岡村、辻、工藤  
〒270-1166  
我孫子市我孫子 1684 番地  
TEL：04-7185-1583（直通）  
E-mail:bunka@city.abiko.chiba.jp

## 10月18日にガイドがスタート！！

我孫子の景観を育てる会からの提案を受けて、教育委員会と協働という形で進めてきた現地ガイド。市民ガイドのみなさんの力により、10月18日（水）から現地でのガイドが開始されました！みなさんにとって、初めてのことだらけでしょうか。事務局も生まれてたてで、なかなか行き届かないところもあるかと思いますが、市民ガイドのみなさんと一緒に、これから末永く多くの人に愛される旧村川別荘としていけるよう、一生懸命やっていきたいと思えます。

どうぞよろしくお願ひいたします。お気づきのことがありましたら、どんどんご意見や情報をお寄せください！



## 11月の月例会について報告します。

### ●11月のシフトについて

シフト表の確認を行いました。シフトを組むにあたっては、これまでのご意見を踏まえて2人体制を基本にしましたが、そうすると1人あたり月に6コマとなり多くなってしまいうことがわかりました。

そこで、土日は必ず2人体制を確保し、ご都合にあわせて1人4回程度を目安に組みまし

た。その結果、平日は1人のコマも生じていますが、今月はこのようなシフトでお願いいたします。

→確認されました。



### ●12月のシフトについて

シフトの組み方についてみなさんからご意見をききました。

- ・1人でも見学者対応は可能なので、1人体制にしてみたらどうか（多数）。
- ・2人体制だと、お互いに意見交換をしたり、勉強になることも多く、こうした機会は有益である（複数）。
- ・日誌を見たところ、平日の見学者は少なく、土日も午前は少ない傾向にある。
- ・平日は1人体制、土日祝日は2人体制とし、場合によっては午前中は1人体制でも可とするのはどうか。

→12月以降は上記のようにしてみましようということになりました。また、様子を見つつ状況にあわせてシフトを調整していきたいと思えます。なお、防犯ブザーを用意してありますので、敷地内にいる管理のスタッフには何かあったときにはわかるようにしてあります。

**活発な意見交換がされました。**

●見学者からの質問

- ・旧村川別荘は市民以外も利用できますか？  
→ご利用いただけます。文化課までご予約ください。その際、利用目的、氏名、住所、電話番号を確認させていただきます。
- ・旧村川別荘の時間外の利用はできますか？  
→現在のところはご利用いただけません。今後、状況をみながら検討していきます。
- ・「ハケの道」ってなんですか？  
→丘陵山地の片岸の道という意味の言葉です。特に、関東地方から東北地方にかけてこのように呼ぶようです。低湿地から斜面に移り変わる境の道であり、馬の背状と表現される我孫子の地形の特徴の一つです。

●ガイドについて

- ・どのような姿勢で臨むのがよいのかよくわからない。  
(人によってガイドのタイプもいろいろあってよいというご意見が出されました。自分の知っていることをたくさん話すのではなく、相手の方の知りたいことを上手に察知して話すのがよいということです。これから、経験をつむことによりそのあたりの呼吸も分かってくるのではというご意見もありました。)
- ・使われている窓ガラスが古いものでとても趣き深い。見学者の方に波打っている手作りのガラスの話をすると非常に喜ばれる。ガラスについての一言メモ的な資料をもらえると、なお正確なガイドができる。  
(次回の月例会にお示ししたいと思います。)



●旧村川別荘の施設について

- ・リーチの椅子は目玉商品。返してもらえないだろうか？  
(貸し出し許可を出している期間中はできませんが、かわりに椅子の写真などをパネルにして置きたいと思います。)
- ・入場料をとったらよいという見学者がいた。
- ・表門と裏門に出した公開中の看板は非常に良い。正式なものを早く出してほしい。
- ・入り口脇がごみ置き場になっており、見苦しい。なんとかできないだろうか。  
(クリーンセンターに相談したところ、回収時間を朝一番にするなどの調整は難しいとのこと、ごみ置き場の位置について地元自治会と相談してみるとのことでした。またご報告します。)
- ・トイレの案内が必要である。
- ・母屋と新館の間の説明板に、「新館に資料を取り揃えています。ぜひお入りください。」などと表示できると良い。
- ・樹木や草花の名札はあった方が良いのでは。
- ・閉館時間は4時となっているが、10分くらい前には閉めている状況がある。  
(管理スタッフの従事時間が4時となっていることから、さしあたってなるべくぎりぎりに閉めてもらうようお願いし、閉館時間を少しだけ早めるか、管理スタッフの従事時間を延長するかの対応をしていきたいと思えます。)
- ・とてもかわいらしいお花が生けてあり、部屋の雰囲気をも明るくしてくれた。  
(ボランティアで提供してくださっています。ありがとうございます。)



**次回は・・・**

平成 18 年 12 月 6 日 (水) 午前 9 時から月例会を行います。また、研修として 12 月 14 日 (木) に江戸東京たてもの園へいきます。どうぞご参加ください！

様々なお知らせや情報などについて、このように便りを出すことにしました。寄稿やご意見、大歓迎です。



# 旧村川別荘だより



平成 18 年 12 月 18 日発行  
旧村川別荘市民ガイド事務局  
我孫子市教育委員会文化課  
担当：岡村、辻、工藤  
〒270-1166  
我孫子市我孫子 1684 番地  
TEL：04-7185-1583（直通）  
E-mail:bunka@city.abiko.chiba.jp

## 紅葉の旧村川別荘へ・・・



### ▲母屋庭側

ガイドが始まってちょうど 2 ヶ月が経ちました。朝夕の冷え込みも厳しく、ガイドのみなさまには、風邪などお召しになってはいないでしょうか？

季節の移り変わりは、寒さを運んでくるだけでなく、紅葉ももたらしてくれます。やや葉が落ち気味ではありましたが、今年の旧村川別荘の紅葉はご覧になられましたか？赤や黄色、橙色に色づいた葉が別荘に彩りを添え、秋らしい風情ある趣きを醸し出していました。

## 12月の月例会について報告します。

### ●1月のシフトについて

シフト表の確認を行いました。シフトを組むにあたっては、平日と土日の午前は原則として1人体制とし、土日の午後は2人体制を確保する形で組みました。

→確認されました。

### ●2月のシフトについて

シフト調整調査票を提出願います。12月27日（水）までに、新館戸棚内のポストへご投函ください。

ますます寒くなりますので、半日単位を守ってシフトを組みたいと思います。

### ●研修について

12月14日（木）の研修について、集合場所等の最終確認を行いました。当初、水道局を集合・解散場所としていましたが、我孫子駅北口に変更して実施となりました。研修の報告については、次号の旧村川別荘だより第3号にて掲載させていただきます。

## 母屋の棚にしまわれていた額について

11月の月例会のときにガイドさんよりご質問をいただき調べてみましたが・・・。

### ●読み方

「またまたいちらく」と読みます。意味は？よく分かりません。中国の故事などにちなんだものでしょうか？どなたか教えてください。

### ●関係すること？

「亦復一楽」と聞いて思い出されるものとして、江戸時代後期の芸術家である田能村竹田<sup>たのむらちくでん</sup>が中国南画の影響を受けて描いた「亦復一楽帖」<sup>またまたいちらくじょう</sup>（画集、重要文化財）があります。

田能村は豊後大分の生まれで多くの弟子を持ちましたので、この額は、田能村の弟子筋と



関係があるのかもしれませんが。



●書いた人は？

揮毫者きごうは「黄檗おうぼく帰元きげん（または帰无きむ）」とあります。「黄檗」とは、禅宗の一派「黄檗宗」の僧侶であることを意味しているのかもしれませんが。黄檗宗の僧侶は中国から入る文化芸術の普及者としての役割も果たしましたので、想像をたくましくすれば田能村一派との関係があったのかもしれませんがね。

●由来は？

村川家に問い合わせたところ「よく分からないのです」とのことでした。堅固先生は家から程近い護国寺のあたりにひいきの古物商がありよく古いものを買ってきて家族を困らせた？とのこと。人間村川堅固を示すエピソードになりそうですね。もともとは新館の入って右側の床の間脇にあったそうです。

→何かガイドさんで把握された情報がありましたら、ぜひお知らせください。現在は、もったったという新館の床の間脇に移しました。説明パネルも作成し設置する予定です。

**そのほか活発な意見交換がされました。**

・このごろ良く訊かれるのだが、建物の全てが当時のままなのだろうか？

(新館の玄関は、堅太郎先生が平成のはじめ頃、改修時に新しくしているほかは、ほとんど当時のままです。寢室のクロスや、新館入り口のコンクリートたたき、そのほかまた調べて皆さんにお知らせしていきます。)

・先月は文化財審議会の方がこちらへ来ていらっしたようだが・・・？

(年度内を目標に、市指定の文化財にしようという方向で進めています。その事前調査のために審議委員の方々に来ていただきました。)

・この肘掛窓のある部屋がやはり見るもののメインで、部屋の利用をしている団体があるときには断って入室し見学しているのだが、やはりゆっくり見ることはできない。

・利用の最初に「見学者の方が来たら入らせてもらえますか？」と事前に言っておくとスムーズである。

- ・寢室であったところも当時のようなしつらえに復元をして、施設そのものを見学専用にするという方法もあるのではないかと。
- ・こうした施設はやはりただ見るだけではなく、使われてこそ生きると思うので、見学専用にはしないほうがよいのでは。

(来年度に向けて利用形態を再検討します。例えば、奥の部屋を会議スペースとしてももう少し多くの人数が収容できるようにし、手前の部屋はしつらえを整えて見学が常にできるようにするなど、またご意見を伺っていきたいと思います。)

- ・そのうちガイド候補第2期生を募集して、どんどんこの活動を広めていきたい。
- ・建物を見にくる方がほとんどだが、庭も見てもらえるよう工夫していきたい。

**連絡事項がありました。**

- ・灯油については、開館中は新館裏口の外側においてあり、閉館時に管理スタッフが中にしまいます。
- ・新館玄関外の“はげの木”はかぶれることがありますので、ご注意ください。
- ・旧村川別荘のパネル展示を各地区近隣センターなどで順次開催しています(12月16日からは近隣センターこもれびにて)。

▼母屋南側



**次回は・・・**

平成19年1月7日(日)午前9時から月例会を行います。12月の月例会でお話できなかった窓ガラスについても取り上げたいと考えています。御出席ください(^ ^)。



# 旧村川別荘だより



平成 19 年 1 月 10 日発行  
旧村川別荘市民ガイド事務局  
我孫子市教育委員会文化課  
担当：岡村、辻、工藤  
〒270-1166  
我孫子市我孫子 1684 番地  
TEL：04-7185-1583（直通）  
E-mail:bunka@city.abiko.chiba.jp

## 年が明けました。

新しい年となりました。みなさま、いかがお迎えでいらっしゃいますでしょうか。昨年度はこのガイドの誕生の年でした。今年は、1歳を迎える年としてまた1歩を踏み出して生きたいと思えます。どうぞ、本年もよろしく願い申し上げます。

## 12月14日に研修会が開催されました。



▲研修風景

第1回の研修は東京都小金井市にある「江戸東京たてもの園」に行きました。我孫子から車で約2時間、緑あふれる広大な敷地には江戸の武家屋敷から昭和の町屋・邸宅のさまざまな建物が保存されています。園内を案内していただくボランティアガイドさんに1時間あまりのガイドをしていただいた後、各自気に入った建物に戻って、建物にいらっしゃるガイドさんのお話に耳を傾けました。建物にそれぞれの歴史といわくがあり、奥の深さに感銘を覚えました。ただ、旧村川別荘と違って移築復元されたものなので、建物を取り囲む街や自然の雰囲気と切り離されてしまっているのが残念でした。逆に景色が変わってしまっているとはいえ、手賀沼べりにあり続ける旧村川別荘のすばらしさが実感できました。行きたびに発見のあるたてもの園、まだの方は必見です！

## <たてもの園の感想>

- ・非常に広大だった。
- ・表千家の庇護者である三井家の建物は特に興味を持って拝見しました。建物は建物だけでなく、その建物の建っていた環境景色も全て含めての“贅沢”さが本来であったのだろうなあと思いました。
- ・ガイドは200人と聞いてびっくり！
- ・ガイドに織り込まれるお話も、宮崎駿のこととかいま生きている身近なエピソードをお話されていて、さすがと思いました。

## 1月の月例会が開催されました。

1月7日（日）に1月の月例会が開催されました。シフトの確認と窓ガラスについて、そして意見交換がなされました。以下に報告します。

### ●2月のシフトについて

シフト表の確認を行いました。

→確認されました。

### ●3月のシフト調整調査票について

1月25日（木）までにいつものポストへご投函ください。ファックスやメールでも結構です。

## 窓ガラスについての一口メモ

旧村川別荘で使われている窓ガラスは、すこし窓の向こうの像が歪んで見える、ちょっとメランコリックな情緒ある雰囲気醸し出しています。ガラスが均一・平滑でなく波打っていることなどからそのように見えます。



旧村川別荘で使われている窓ガラスは、取り替えられたような形跡やお話はないことから、おそらく新館が建築された昭和初期(1920年代後半)以前のものと推察されます。

この時期は、**手(機械)吹き円筒法**(ガラス原材料を加熱し溶かしながら膨らませて筒を作り、その筒を切り開いて伸ばして板状にする製造法)と呼ばれる工法から**垂直引き上げ法**(ガラス原材料を加熱して溶かし、表面張力を利用して垂直の板状にして引き上げる製造法)という工法への移行時期でした。

当時の大手ガラス製造会社である旭硝子ではベルギー式の円筒法による生産を、日本板硝子ではコルバーン式の垂直引き上げ法による生産をそれぞれ行っていました。ガラスの現物を見て判断できるような鑑識眼がないので状況判断なのですが、旧村川別荘の窓ガラスは、歪みがより少ないこと、垂直引き上げ法の痕跡かと思われる筋などが見られることから、垂直引き上げ法による板ガラスではないかと考えています。

より詳しい情報などありましたら、ぜひお教えてください。



**そのほか活発な意見交換がされました。**

- ・16時閉館としていることと、閉館の実際の取り掛かりはそれより前になってしまいます。5分前などのぎりぎりに来た方には、4時には閉まりますのでとお話した上で、外観をご覧いただいて外でのガイドをしたことがあります。(管理の方との契約が16時までとなっていて、閉めるには少し時間がかかるため、10分ほど前から雨戸を閉めたり片づけをしたりということになっているようです。すぐに契約を切り替えるということが予算の関係上も困難ですので、3月まではいまおっしゃっていただいたような対応をしていただいて、4月以降については管理の契約を4時半までにするなど、少し余裕をとるか、入場は3時半(または3時45分)までという仕組みにするか、いずれにしても閉めるための時間を確保するようにしたいと思います。)
- ・市内の史跡について説明しているパンフレットはないのでしょうか?有償でも無償でも。ご案内できるとよいかと思いました。
- ・『我孫子の史跡を訪ねる』というがあります。作られたのが結構古いのですが、有償で私が買った当時500円です。あとは無償のガイドマ

ップですね。

(現在1冊900円です。市の行政情報資料室や文化課、市内の書店で入手できます。)

- ・園路についてですが、ここに友人を連れてきたいと考えたりしても石段や傾斜の竹の階段が危なくて、万が一転んで骨折でもしたらとなかなか積極的に誘えません。もともとのままでというのも分かるのですが、もう少し安全なほうがよいと思います。
- ・見学者と部屋の利用者との共存についてですが、利用しているグループによってはやはり活動中に入らせてもらうのが非常に困難な場合があります。部屋の利用予約の時には、説明をして可能な限り奥の部屋をお使いいただくよう促し、手前側の部屋を使われる場合には見学者が活動中に入ることを了承していただくようにしてほしいのですが。(利用の方々は、1年以上前から年度のスケジュールで予約を取られている方が多いので、そうしたケースの場合には新年度からということになりますが、今後の新たな予約の場合にはそのようにしていきます。)

**連絡事項です。**

- ・新館トイレの洗浄のレバーは古くなっておりばねが利かないため元に戻りにくくなっています。きちんと最後に元に戻った状態にならないと、水が流れたままになります。お気をつけください。
- ・お茶のセットを母屋の台所に用意しました。やりやすいように新館に持ってきてよし、母屋において使ってもよし・・・どうぞ遠慮なくお使いください。茶器は村川家より頂いたものです。このような形で役立つことができればとてもよいと思います。

☆財前さんが寄贈してくださいました!ありがとうございます。村川堅太郎先生が筆頭監修者になっています。新館に置きます。 →

**次回は・・・**

平成19年2月1日(木)  
午前9時から旧村川別荘新館にて月例会を行います。如月…“着更着”で暖かくして御出席ください(^ ^)。





# 旧村川別荘だより



平成 19 年 2 月 9 日発行  
 旧村川別荘市民ガイド事務局  
 我孫子市教育委員会 文化課  
 ●歴史文化財担当：岡村、辻、工藤  
 〒270-1166  
 我孫子市我孫子 1684 番地  
 TEL：04-7185-1583（直通）  
 E-mail:bunka@city.abiko.chiba.jp

## 朝日新聞に掲載されました。

1月30日（火）付け朝日新聞の朝刊に旧村川別荘ガイドさんの記事が掲載されました！ご覧になられた方も多かったかと思えます。景観を育てる会の吉澤さんに朝日新聞よりお声がかかり、1月24日（水）の午後に取材が行われました。平日でしかも水曜日というお客様の少ない日・・・と心配をしていましたが、ちょうど4名の素敵な女性たちが訪れたところで、この日のお当番の小沢さんがガイドをしているところを激写！！という感じで、タイミングも良かったようです。小沢さん、おつかれさまでした。



ちなみに、新聞に載るようなことをあまり想定していなかったのが、30日は朝から文化課の電話が鳴りっぱなし・・・とまではいきませんが、その日だけでも30本くらいはあったのではないのでしょうか？次の公開日である31日の水曜日には80名近く（平日なのに記録的満員御礼です！）のお客様がお越しくださいました。また、土曜日、日曜日にはさらに多くのお客様をお迎えすることとなり、お当番に当たられた方には大変忙しい思いをさせていただきました。飛び入りでお手伝いくださった荒井さん、本当に感謝です。

## 2月の月例会が開催されました。

2月1日（木）に2月の月例会が開催されました。シフトの確認と扇型の色紙に書かれた和歌について、そして意見交換がなされました。以下に報告します。

- 3月のシフトについて  
シフト表の確認を行いました。  
→確認されました。
- 4月のシフト調整調査票について  
2月25日（日）までにいつものポストへご投函ください。ファックスやメールでも結構です。

## 扇型の色紙に書かれた和歌について

旧村川別荘の母屋和室には、中島廣足の和歌が書かれています。1ヶ月ほど前に、この和歌2首について、ガイドの瀬戸さんから「どちらの歌も一文字読んでいない文字があるみたいです。こう読むのではないのでしょうか？」とご指摘をいただきました。ありがとうございます。これが一つ目の卯の花の歌ですが・・・。



卯の花  
うの花の  
庭しろたへに  
さきみちて  
おのが青葉も  
雪のした  
くさ  
広足

この赤字のところが誤っていた部分。

万葉仮名風に書くとこのような感じでしょうか、『宇能花農／庭之呂多部尔／左起美知天／於乃可青葉毛／雪能志多／久佐』。簡単な解釈もつけました。『卯の花が庭一杯に白く咲き満ちている。その白さがまるで雪のようで、卯の花自身の青葉が雪の下から草がのぞいているように見えることよ。』ということです。

もう1首についても、律儀にもやはり1字落としていました。

月前雲

いとひつる  
こゝろや空に  
かよひけむ  
月をよきては  
過る雲  
かな

広定

万葉仮名風に書くと『以止比川留／故、呂也空仁／加与比介舞／月越与記天者／過流雲／可那』。解釈は『厭わしく思っていたら心中が夜空に通じたらしい。美しい月を避けるように過ぎていく雲であるよ……。』ということです。ガイドの中でお役立ていただければうれしいです。

また何かお気づきのことがありましたら、ご提言ください。

### そのほか活発な意見交換がされました。

- ・まれに何かの具合で遅れたりして午前と午後の引継ぎが力切な場合があるので、そんなときは日誌やそのほかの資料、箱については必ず元の物入れの中に戻すことを約束事にしませんか。(当番が終わったら原則は戻すということで、次の人と会えた場合には引き継ぐということに統一します。ご協力を。)
- ・新パンフレットができました。とりあえず現在2000部刷ったところです。
- ・パンフレットは各公共施設とほかにも道の駅とか白樺文学館など近辺の主だったところにもおいた方がよいと思います。



### 連絡事項です。

- ・2月25日(日)の午前中は、ちば観光キャンペーンの一環として文化課主催の散策を行い

ます。『白樺派の足跡を巡る』と題して3時間ほどのコースを歩きます。もちろん、旧村川別荘もポイントのひとつにしています。

- ・同様に3月24日(土)、4月29日(日)も実施予定です。
- ・4月14日(土)は、JR東日本が主催する駅からハイキングが我孫子駅からのルートで行われます。旧村川別荘もコースの見所として入れてもらっています。この日にはやはりお客様が相当多いと思われますので、普段よりも手厚くシフトを組みたいと考えています。どうぞ協力ください。
- ・4月15日(日)は、村川堅固先生、堅太郎先生について、また旧村川別荘についての理解をさらに深めていこう、市民の方々にもさらに知ってもらおうということで、アビスタで講演を行う予定です。追って詳細をお知らせしていきますので、ご協力をお願いいたします。

### 次回は・・・

平成19年3月1日(木) **午前9時半**から旧村川別荘新館にて月例会を行います(^ ^)。月例会の今後の開催ですが、2月の月例会で話し合い、毎月1日で固定しようということになりました。あらかじめ分かっているほうが覚えやすいし都合もつけやすいということです。

3月以降は曜日にかかわらず**毎月1日の9時半**から月例会を行うこととしました。どうぞよろしくをお願いいたします。

### アイデア、寄稿を募集します。

この旧村川別荘だよりに載せたいこと、載せたい絵や写真、記事、アイデアなどを募集します。事務局までどうぞ。



☆中野さんが活けてくださいました。立春を迎え、なんだか心も弾むようです。(吉澤さん撮影)